

市川市における 可視化技術の活用について



千葉県 市川市
街づくり部 街づくり計画課

市川市の概要

都市構造可視化を用いて、市川市の現況を確認

市川市の概要

人口：493,021人 面積：56.39km²

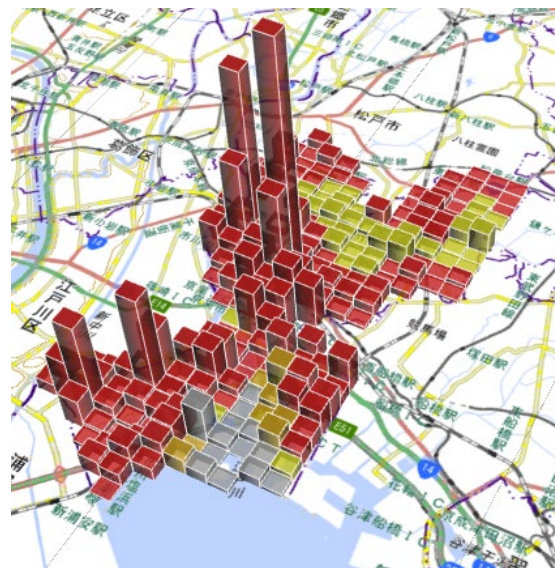
鉄道網が整備されており、7路線16駅を擁する

都心から20km圏内にあり、文教・住宅都市として発展

▼課内で活用できるように可視化の簡易マニュアルを作成し共有



▼公共交通利用圏と人口分布の関係
(補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用)



可視化による効果

可視化することにより良い点もあればまいちな点の意見有

▼人口分布の経年変化 (1 kmメッシュ)

(補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用)



2003年



2023年

・見た目はインパクトはあり
・経年変化を動きでみれるのは
GOOD!

課題として

- ①メッシュが粗いとデータがわかりづらい
- ②地図上の位置がわかりづらい
- ③高さの数字が大きいとその他の場所が見づらい

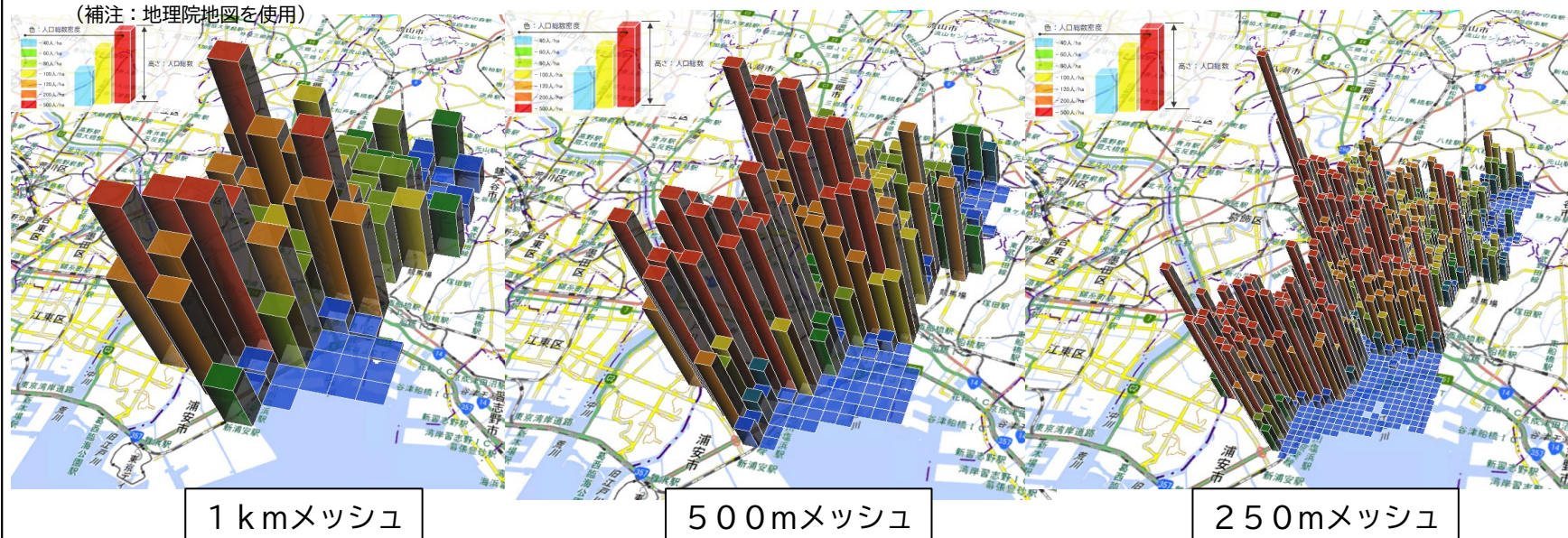
課題 1 (メッシュの粗さ) について

メッシュの大きさによる見え方の違い

メッシュが粗いと1つの区域に市街化調整区域が含まれることもありデータとしてわかりづらい
メッシュが細かいほど特性が見ることが可能。
ただし、既存で使用できるデータがあればよいが作成となると労力と知識が必要となる。

▼e-statよりR2国勢調査の人口データ

(補注：地理院地図を使用)



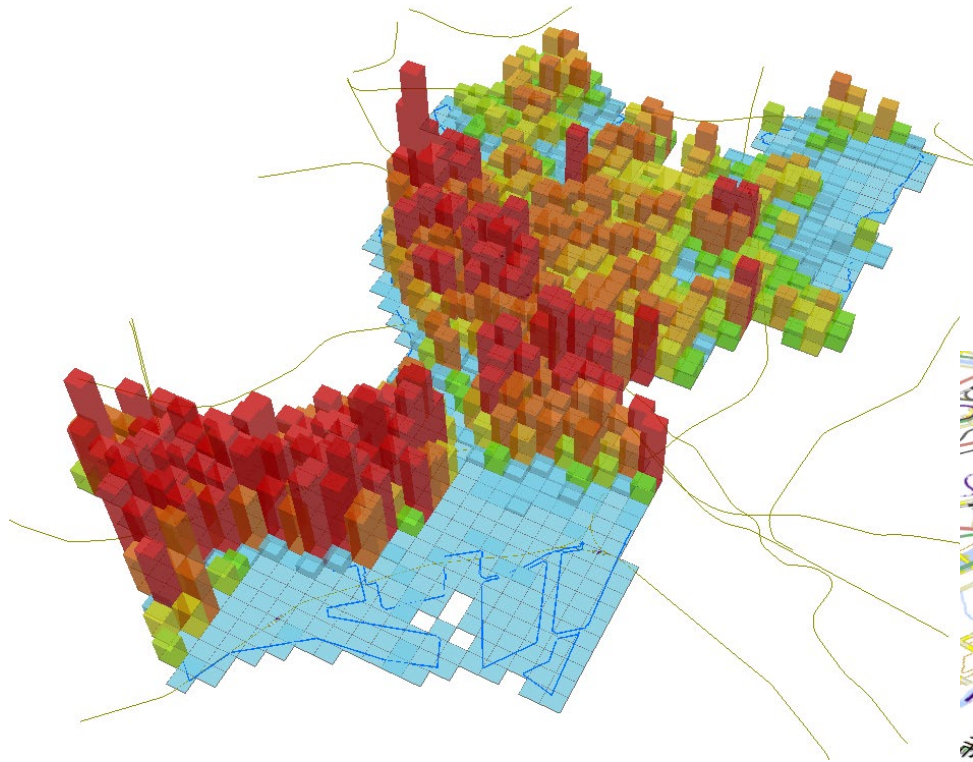
粗い

細かい

データの3D化について

Arc Sceneでも3Dの表現が可能

▼人口（高さ） × 人口密度（色）



市川市で導入している
Arc Sceneでもshpデータの
3D化が可能

今後、いろいろな活用方法
を見出していきたい

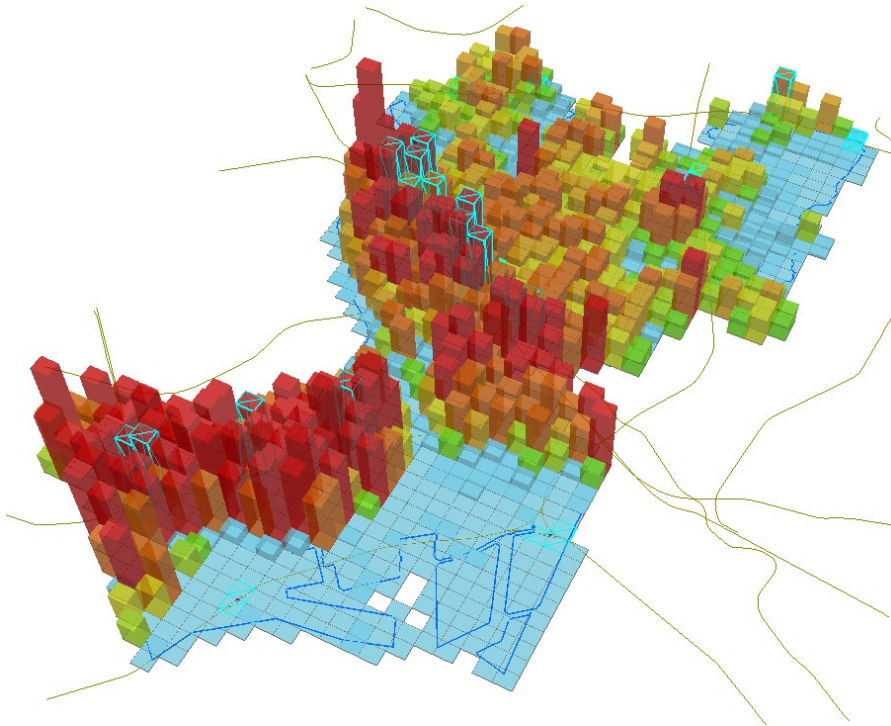
▼Arc Sceneで作成したものをkmzに変換して反映
(補注：地理院地図を使用)



課題②（地図上の位置のわかりづらさ）について

場所の特定ができるように駅の場所を表現

▼駅のある場所の区域を水色で枠取り



▼駅のある場所の上部に印を表記



あまりいい表現が見つけれなかったが、工夫によりさらによりデータの見せ方を見つけない

既存データの活用

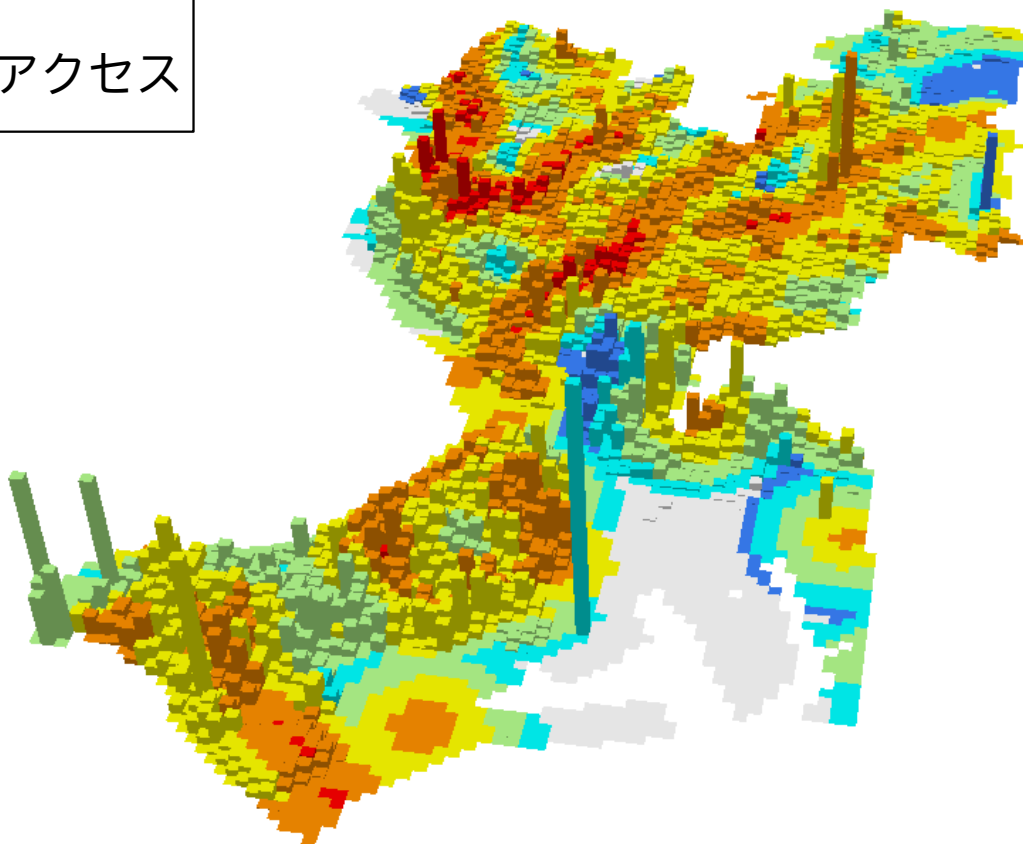
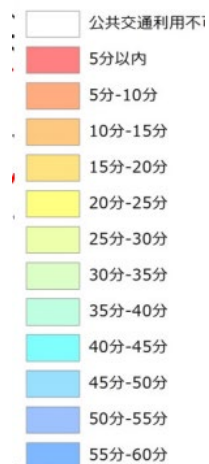
過去の委託データを3Dで表現

過去の下記委託データで作成

100mメッシュの人口
×
100mメッシュの拠点へのアクセス

▼高さ = 人数

▼色 = アクセス性



特産品「市川のなし」



東京外かく環状道路



道の駅いちかわ



市川市新第1庁舎



本八幡A地区
第一種市街地再開発事業

